

1 新案内記号導入にあたって

- 導入予定事業者
- ・県下全乗合事業者5社

- 対象範囲
- ・熊本市及びその周辺地域（図1赤枠）を運行する路線バス
- ※コミュニティバス、ナンバリング実施済など一部系統を除く

- 今後のスケジュール（図2参照）
- ・2019年4月 新案内記号確定
- ・同年8月 一般公開・周知開始
- ・同年秋頃 新案内記号運用開始

※ラグビーW杯開催前までには実施
10/6 フランスートンガ 10/13 ウェルズーウルグアイ

- 費用負担
- ・熊本県及び熊本市がそれぞれ費用総額の3分の1を負担。
- ・残3分の1は導入事業者で按分

【図1】ナンバリング対象地域(赤枠内)
青枠内地域はナンバリング実施
済みあるいは実施予定の地域
実施済→荒尾市,玉名市,阿蘇市
八代市,水俣市
予定→天草市



【図2】今後のスケジュール

H30						H31						H31												
6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
系統ナンバリングの策定																								
												車載器等への新案内記号の反映												
												一般公開・周知活動												
												新案内記号運用開始予定												
												新交通バスの開業												
												ラグビーW杯												

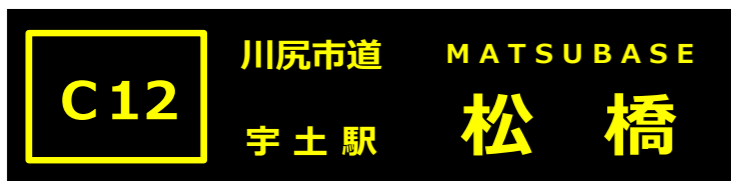
2 現行の案内記号

- 現状認識
 - ・漢字部分・・・外国人旅行者、土地勘がない方にとって読んだり記憶することが難しい
 - ・数字部分・・・系統が新設・廃止されたこと等により統一性がなくなっている
- ⇒ インバウンド旅行者が「どのバスに乗ればいいのか分からない」という現状があり、バス利用に繋がっていない

【現在の行先方向幕】



3 ナンバリング制度の概要

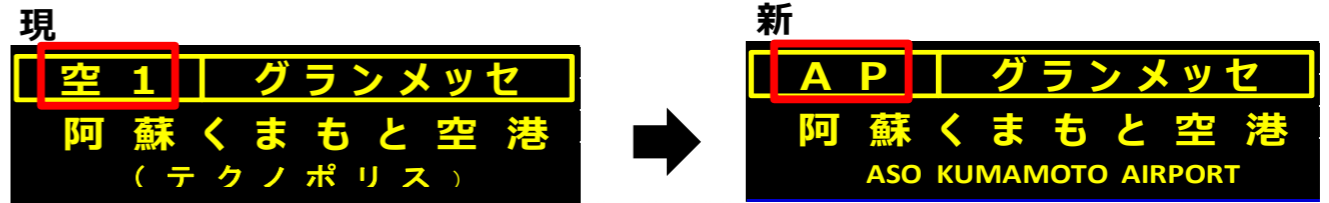


- C → 大まかな方面（川尻方面）
 - 1 → 主要経由地（川尻市道）
 - 2 → 第二経由地（宇土駅）
- ※仮の番号を当てています

- ・漢字部分をアルファベットに変更
→ 増加するインバウンド観光客に対応
- ・数字部分にそれぞれ意味を持たせることで、お客様に対しより細やかな情報提供が可能
- ・しろめぐりん、空港リムジンバス等、インバウンド観光客の需要が高いバスにもナンバリングを予定

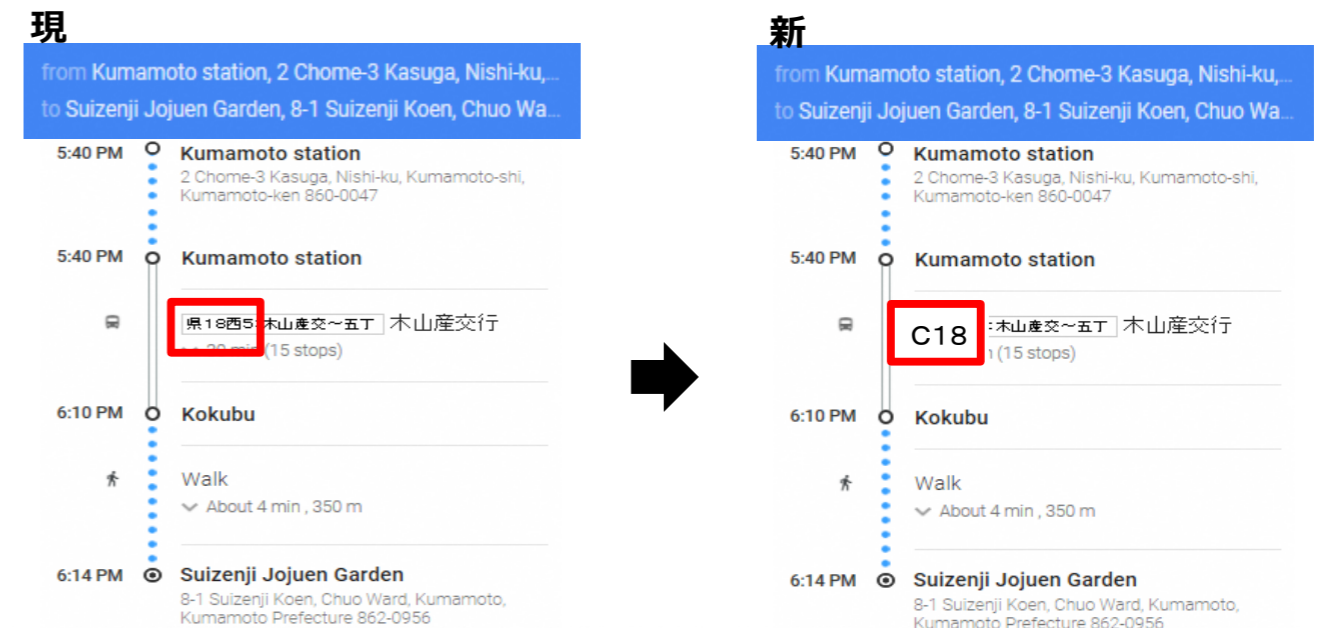
4 新案内記号のイメージ

- 空港リムジンバス



案内記号をアルファベット等に置き換えることにより、乗車する際あるいはスマートフォン等で事前に情報を収集する際に発生している「分かりにくさ」を解消し、バス利用環境の改善が可能となる。

- 熊本駅 → 水前寺公園 へ行きたい場合



上図は熊本駅から水前寺公園へのアクセスをGooglemapsで検索した結果の画面。現在漢字の案内記号を採用しているため、肝心のどのバスに乗るべきかが判然としないインバウンド観光客も一定数いるものと思われる。これを解消するために、アルファベット+数字の案内記号を導入することで、インバウンド観光客の認知が容易になるとともに、インバウンド観光客への案内がより簡易なものとなる。

- ユーザー別の利便性向上について

ユーザー	現状 漢字+数字	改善 アルファベット+数字
日常使いの人々 (熊本都市圏)	・慣れている ・規則性がなくなっている →利用しづらい	・規則の再設定により乗るべきバスの判別が付きやすい
訪熊日本人	・漢字は分かるが、読み方が分からない →記憶しにくい、利用しづらい	・アルファベットは利用する際、案内を受ける際に分かりやすい
インバウンド	・そもそも漢字が分からない →記憶できない、利用しづらい	・アルファベットは理解でき、利用する便を特定できる